

第 5 回 第 5 次 亶理町 総合発展計画 審議会 議事とりまとめ

開催概要

日 時：平成 27 年 10 月 20 日（火） 午前 10 時 30 分～午後 12 時 15 分

場 所：悠里館 3 階 視聴覚ホール

委 員：

	役職等	氏 名	出欠
1	宮城大学事業構想学部 副学部長 教授	風見 正三	
2	宮城大学食産業学部環境システム学科教授	郷古 雅春	
3	亶理地区行政事務組合消防本部消防長	松本 邦彦	
4	宮城県亶理警察署長	阿部 徹	代理
5	亶理町災害防止協議会長	八木 昌征	
6	亶理町婦人防火クラブ連合会長	穴戸 まり	
7	亶理地区区長会長	鈴木 正一	
8	吉田地区区長会長	三戸部 哲二	
9	荒浜地区区長会長	渡部 幸造	
10	逢隈地区区長会長	三品 知之	
11	亶理地区まちづくり協議会長	伊藤 建夫	
12	荒浜地区まちづくり協議会長	鎌田 幸夫	
13	吉田西部地区まちづくり協議会長	小山 信悦	
14	吉田東部地区まちづくり協議会長	佐藤 實	欠席
15	逢隈地区まちづくり協議会長	村上 収	
16	亶理町民生委員・児童委員協議会長	横山 敏彦	
17	亶理町老人クラブ連合会長	渡邊 信秋	欠席
18	子ども・子育て支援審議会	志賀 力	
19	わたりっ子を育てる会会長	伊藤 幹代	欠席
20	亶理郡医師会長	大友 弘美	欠席
21	亶理町食生活改善推進員協議会長	清野 珠美子	
22	亶理町農業委員会会長	齋藤 勇紀	
23	亶理土地改良区理事長	日下 清一	欠席
24	みやぎ亶理農業協同組合代表理事組合長	村山 裕一	
25	みやぎ亶理農業協同組合女性部長	安住 郁子	欠席
26	認定農業者協議会会長	片平 洋之	
27	亶理町農産加工推進協議会長	小野 ひで子	
28	宮城県漁業協同組合仙南支所亶理運営委員長	菊地 伸悦	欠席
29	宮城県漁業協同組合仙南支所亶理水産加工研究会長	木村 光子	欠席
30	亶理ロータリークラブ 代表	櫻井 隆	欠席

	役職等	氏名	出欠
31	亶理ライオンズクラブ 代表	黒崎 敏郎	欠席
32	(社)あぶくま青年会議所 代表	佐藤 英治	欠席
33	亶理山元商工会会長	丸谷 由郎	
34	亶理山元商工会女性部長	丸子キヨ子	欠席
35	亶理山元商工会青年部長	伊藤 喜仁	欠席
36	亶理町教育委員会委員長	佐藤 正行	
37	亶理町地域婦人団体連絡協議会長	小野 典子	欠席
38	亶理町芸術文化協会会長	大堀 欣七	
39	亶理町PTA連絡協議会長	三品 裕也	欠席
40	亶理町スポーツ振興審議会会長	樋口久美子	
41	NPO 法人 セリアの会理事長	セリア・ダンケルマン	
42	一般住民	宍戸 法男	
43	一般住民	大久 邦夫	
44	一般住民	門馬恵美子	
45	一般住民	木村 一行	欠席
46	一般住民	齋藤 博志	欠席
47	一般住民	伊藤美和子	
48	一般住民	尾本とも代	
49	一般住民	太細 正志	
50	一般住民	鈴木一江	欠席
51	一般住民	紅林 すゞ子	

※全 51 名中、33 名出席。

亶理町総合発展計画審議会条例の第 6 条 2 項の規定により会議は成立した。

事務局：

企画財政課	課長	吉田 充彦
	班長	宍戸 和博
	副班長	久保 昭裕
	主事	猪股 裕二郎
	主事	武山 智哉

事務局補助：

国際航業株式会社	増戸 保明
	竹田 浩一
	小山 久美

配布資料：【次第】

【まちづくりの体系図（案）】

【第3回専門部会の検討結果】

【第5次亶理町総合発展計画（基本構想）の骨子】

（以上、事前配布）

議事概要

- 開会に先立ち、宍戸班長が、出席者が51名中31名で亶理町総合発展計画審議会条例の第6条2項の規定により会議が成立すること、会議途中での傍聴希望者の入室も認める旨を伝えた。（※この後2名の委員が出席し、出席者は33名となった。）

1. 開会

- 事務局の宍戸班長が進行した。

2. 会長挨拶

- 風見会長が、「おはようございます。このような大きな会は久しぶりの開催となります。分科会は当初の予想よりだいぶ盛り上がり、その他にもお集まりいただいて大変活発な議論を重ねてまいりました。本日は今までの議論をもとに事務局が作った『たたき台』について、意見の付け足しなどを行っていただきます。その後、事務局に報告書のような形でとりまとめていただき、11月末に皆様の承認を得てから町長に答申するといったスケジュールとなっておりますので、どうぞよろしくお願ひします。」とあいさつを述べた。

3. 協議事項

- 風見会長が議事を進行した。

(1) 第5次亶理町総合発展計画基本構想 骨子について

- 【まちづくりの体系図（案）】 【第3回専門部会の検討結果】 【第5次亶理町総合発展計画（基本構想）の骨子】 に基づき、事務局の猪股主事が説明を行った。

村上委員（まちづくり部会長）：

（【第3回専門部会の検討結果】をもとに、これまでの検討概要を説明した。）

・これまでの検討結果を反映していただければ良いなと思っています。

風見会長：まちづくり部会は大きなテーマの中できちんとまとめていただきました。

検討結果やご提案は、行政だけでなく審議会の我々も共有して実現に向けて頑張っていきたいと思います。

部会長さんには、これまでの議論で中心となったことや骨子に抜けていると思われるところなどを重点的にご説明いただければと思います。

郷古委員（産業部会長）：

（【まちづくりの体系図（案）】【第5次互理町総合発展計画（基本構想）の骨子】をもとに、追加事項を中心に説明した。）

- ・「わたしとわたりのブランドづくり」について、一人ひとりがプロモーターであり、住民が主役であるという意味も込められていると改めて感じた。
- ・キーワードとして「参加」が重要である。
- ・「内部の交流を含めた交流の受け皿」「周遊の受け皿」「ブランディングプロジェクト」「PRの強化」などを総合的に進めて、互理のブランド化につなげていきたい。
- ・【まちづくりの体系図】を見ると、他の部会のキャッチフレーズである「ともに」「未来」「絆」「持続可能」が、産業部会が提唱するブランドづくりに繋がると改めて思った。

風見会長：総合計画では、それぞれの部会が連携したビジョンができていくことが重要となります。最近「グローバル」と「ローカル」が合体して「グローバル」という言葉も出ております。地域の良い所をブランド化して行く意味でも、産業はそれを牽引していく立場にあると思います。

佐藤委員（教育部会長）：

（【第3回専門部会の検討結果】【第5次互理町総合発展計画（基本構想）の骨子】をもとに説明した。）

- ・①学校（幼児）教育と、②生涯学習をキーとして検討してきた。
- ・その2つの根底となる「人づくり」という文言が骨子に盛り込まれているのは良かったと思う。
- ・「地域教育推進プロジェクト」について、学校教育は必ず実施し続けなければいけないものであり、保護者と学校と地域が協力し、連携しあって子どもを育てていくものであるから、「育てあう環境プロジェクト」に変えてはどうかと思う。
- ・総合発展計画は10年後の町の姿を踏まえた計画だと思うが、資料に示されている「重点プロジェクト」は10年間かけてやっていくものなのか、もうすこし短いスパンで実施するものなのか。また、他の部会でも出されている様々なプロジェクトや事業は、どのように計画に取り上げられていくのか、質問したい。

事務局吉田：第4次総合発展計画は今年度で終了となります。第5次は来年度からのものとなりますが、基本構想の他に基本計画というものがあります。これは前期と後期に分けてこれから詳細を検討していきます。

皆様から出していただいた意見を全て反映するのが理想ではありますが、事務局と関係各課で調整して、また第4次の進捗状況も鑑みて、取捨選択をしていかなければならないことはご了承願います。

風見会長：具体的なプロジェクトの内容や年次スケジュールなどにも関心があるかとは思いますが、財政も踏まえると、どうしても優先順位を付けなければいけないものです。総合計画においては、透明性をもって実施計画等

までのとりまとめをお願いしたいと思います。

部会長さんから「育て合う環境プロジェクト」にしたかどうかという提案がありましたが、やはり固くない言葉でまとめるのが良いと思いますので、そのようにお願いします。

教育も長い目で見ていくもので、効果が具現化するのには5年後、10年後となるかもしれませんが、引き続き協力しながら進めていければと思います。

志賀委員（保健福祉部会長）：

（【第3回専門部会の検討結果】をもとに説明した。）

- ・保健福祉部門では必要なことはほとんど実施中という側面があるため、今までのやり残しに特化して検討してきた。
- ・実際に問題や課題に直面している委員さんが多いので、それを解決・避けるためにどのようにしたら良いかという観点で検討を進めた結果、「健康づくり」に話題が集中した。
- ・医療分野や障害者対応の検討が少し足りなかったが、保健福祉分野だけで解決できる問題ではないと思った。
- ・保健福祉課だけでなく、他の関係各課との連携も視野に入れて検討していくべきと感じた。

風見会長：おっしゃるとおり、分野や立場を超えて色々な連携が必要です。保健福祉分野だけに限りませんが、未来を見据えた安全安心なしくみを作ることが求められています。

とりまとめにおいては、全体を俯瞰的に見据え、政策としてうまくミックスしていくことが、皆さんの議論を無駄にしないことにもなりますので、事務局にはご留意いただければと思います。

三品委員（総務部会長）：

（【第3回専門部会の検討結果】をもとに説明した。）

- ・震災以降特に取り上げられるようになった「絆」の強化の実現について、どのようにしたら良いかを議論してきた。
- ・そのためには「活動する場」「指導者・担い手の育成」「自治コミュニティ」が重要と感じた。
- ・「防災」「安全安心」だけでなく、各部会のとりまとめをも担うという広い範囲の部会であるということだったので、検討範囲が広がった。

風見会長：「自治」は基盤でありゴールでもあると思います。それぞれが当事者意識を持って共有や実施をしていくことが、これからますます大事になってきます。

以上が各部会長からのご報告となります。これを共有していただいた上で、何かご質問やご提案などありましたらお願いします。

村山委員：JA組合長の村山です。今まであまり出席できなかったのですが、発言するのはどうかとも思ったのですが、気になったことを申し上げます。

以前、町政方針において「観光のまち」にするという説明を受けたので

すが、この「観光」を総合発展計画においてどのように位置づけているのか、どこに力点を置いていくのか、少し要素として薄いように思います。豊かな観光資源を有効に活用する計画とすることが重要であり、そのためにも町の入口である亘理駅とスマートインターを関連付けた計画であればなお良いと思うので、JAとしても協力して行きたいと考えています。

また、今盛んに言われている地方創生の力をどのように活かすのかというのも重要だと思います。

丸谷委員：商工会会長の丸谷です。今の村山委員のご発言について、商工会としての考えを申し上げます。スマートインターの側の道の駅については、漁協さんと農協さんの考えが一致された時に、商工会としても頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

なお、観光については、商工会として里山ツアーを12月に実施します。産業が元気にならないと町が元気にならないという観点のもと、商工会も協力していきたいと思います。

また追加としまして、骨子案にある「本町のあゆみ」について、藤原氏の祖先である藤原経清がいたということ、中世に支配したのは亘理氏ではなく武石氏であることなど、内容をもう一度精査していただきたいと思います。

風見会長：もう少しエッジの効いた言葉を盛り込むことも必要かもしれませんね。歴史の内容については、今のご発言なども参考に、事務局でももう少し整理して下さい。

今の内容について、事務局から何かありますか？

事務局吉田：私も産業部会に入っておりましたので、スマートインターの側に構想があった道の駅についてかなり検討してきました。道の駅構想は立ち消えるものではなく、関係者の皆様の方向性が一致したあとに再度検討するものと位置づけております。

町長の施策のひとつに「パークタウン構想」があります。これは、亘理町全体をひとつの観光資源としてPRしていくというものであり、第5次でも力を入れていきたいと考えております。

渡部委員：荒浜地区区長会長の渡部です。色々な要素があると思いますが、「賢い人づくり」も大事なのではないかと考えます。「賢い人」が増えれば、教育や健康にもつながり、未来に希望が増えるのではないのでしょうか。そのためには、各分野の専門家、特に町外の専門家の意見を聞いて考えを取り入れる、まちづくりの拠点に広場を作って集まる場所をつくるなどが考えられます。町民の所得、町民総生産が増えることが、良い町になる要素のひとつだと思います。

郷古委員：産業部会から補足します。産業部会でも、観光に話題が集まりました。ただ、先ほど吉田課長も申された通り、道の駅については意見が別れるところです。そのため、検討取りまとめの資料についても、賛成と反対

の両方の意見を載せる形としております。地域資源の魅力を高めてブランド化していくという方向性は打ち立てておりますが、確かに「観光」という言葉がはっきり出てはいないので、事務局との調整が必要かもしれません。

風見会長：地域資源を活かしていかに自立的に町を運営していくかという視点も重要ですので、町長の方針との整合性を含め、事務局でもう一度検討して下さい。

大久委員：観光としては荒浜がやはり重要になると思うので、荒浜の鳥の海を宿泊施設にして欲しいと思っています。函館の朝市のようなものを定期的で開催するなど、先進事例を勉強してはどうでしょうか。また、町の料理店から食材を集めて提供するなどの仕組みづくり、更に協同組合を作った国の資金の活用なども考えられるのではないのでしょうか。それにより、町が活性化していけば良いと考えます。

事務局穴戸：地方創生について、事務局から補足します。亶理町でも今年度中に総合戦略を策定する予定で、国・県計画との整合性もにらみながら、現在作業を進めております。総合発展計画の骨子の内容が、より具体的に「戦略」として反映させるものとしており、国の新型交付金を活用しての実現化を検討しております。

村山委員：地方創生については、「亶理郡」という観点は盛り込まれているのでしょうか？

事務局吉田：いわゆる広域行政については、亶理町、山元町、岩沼市、名取市を巻き込んで、単体の事業の他に広域での検討も重要であると認識しております。

渡部委員：「観光」に力点を置くのであれば、大型バスが入って停められるような場所や施設についても必要と考えますので、是非検討をお願いしたいと思います。

村山委員：まずは観光地らしいものを作っていかなければいけないと思っています。

風見会長：議論が白熱しているところではありますが、これは今だけの議論で解決できることではありませんので、それぞれのお立場で当事者意識を持つことが重要です。「ローマは一日にしてならず」という言葉の通り、行政に任せるだけでなく、皆さんで実行していくことが、これからも重要となります。

事務局には今回の意見をもとに、報告書の形で素案として次回皆さんにご提示していただきます。これを最終確認していただき、町長に提案する予定となっております。本日言い足りないことなどがもしありましたら、メールでも電話でも、事務局に早めにご提案いただければと思います。

本日の議論を事務局で精査・反映していただき、より良い素案となるこ

とを期待しまして、今回の検討を締めさせていただきます。
本日はありがとうございました。

(2)その他

- 宍戸班長が、次回は11月24日の午後3時から、会場は吉田地区農村環境改善センターでの開催を予定している旨を伝えた。

4. 閉会

- 伊藤会長より、「本日も活発なご意見をいただき、ありがとうございました。次回も皆さんの意見を取り入れながら計画を練り上げ、町長への答申を目指したいので、引き続きよろしくお願いします。」とあいさつがあった。
- 午後12時15分閉会。